

地域連携の推進に向けた事前アンケートの回答

東京都保健医療局医療政策部

事前アンケートの結果（区西南部）

病院としての主な機能別の回答状況

病院としての主な機能	病院数
高度急性期	3
急性期/サブアキュート	3
回復期/ポストアキュート	1
慢性期	1
ケアミックス（急性期・回復期）	4
ケアミックス（回復期・慢性期）	1
その他	0
計	13

許可病床数別回答病院数

許可病床数	病院数
200床未満	6
200床以上400床未満	3
400床以上	4
計	13

■ 病床機能別稼働率【許可病床の規模別】

急性期 1



急性期 2・3

急性期 4～6



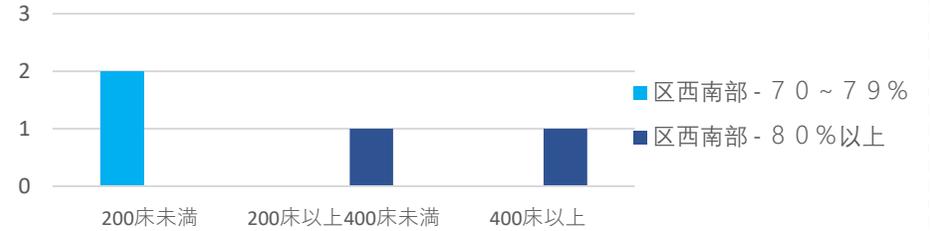
事前アンケートの結果（区西南部）

地域一般 1～3

地域包括医療



地域包括ケア 1・2

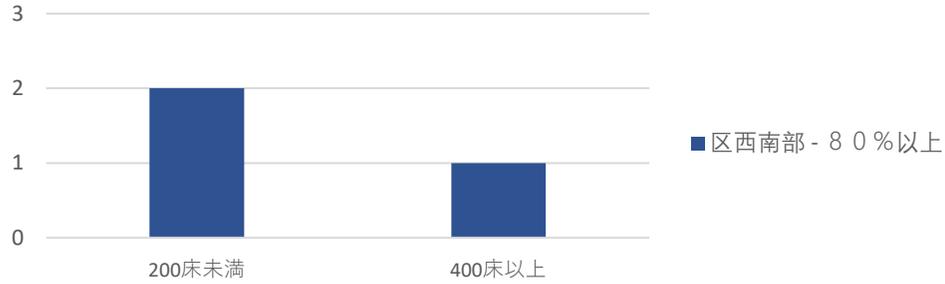


地域包括ケア 3

地域包括ケア（療養病床）

事前アンケートの結果（区西南部）

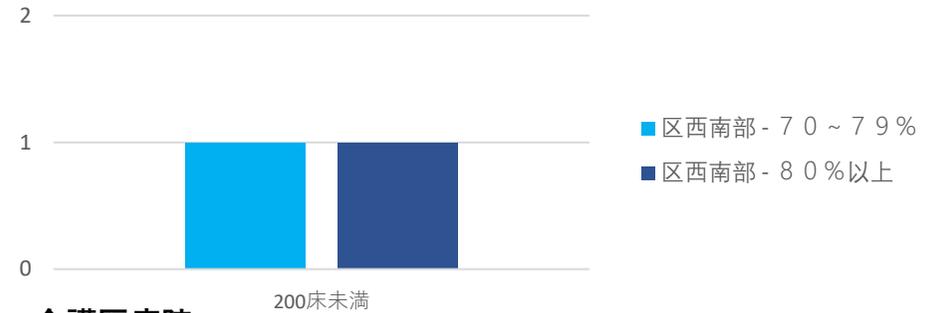
回復期リハ1・2



回復期リハ3・4

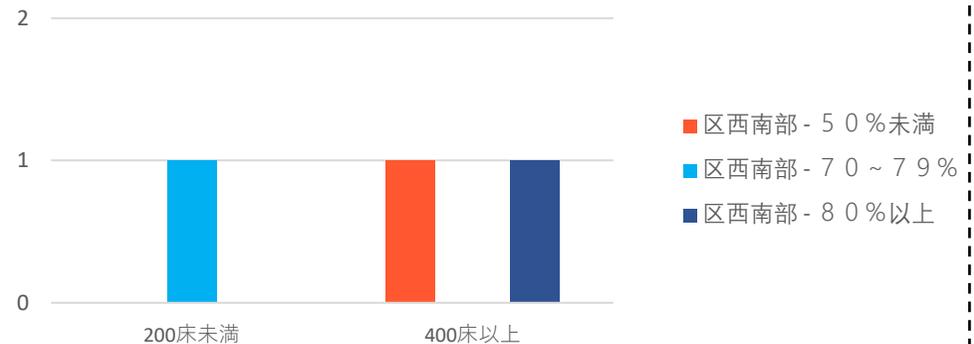
回復期リハ5

療養病床



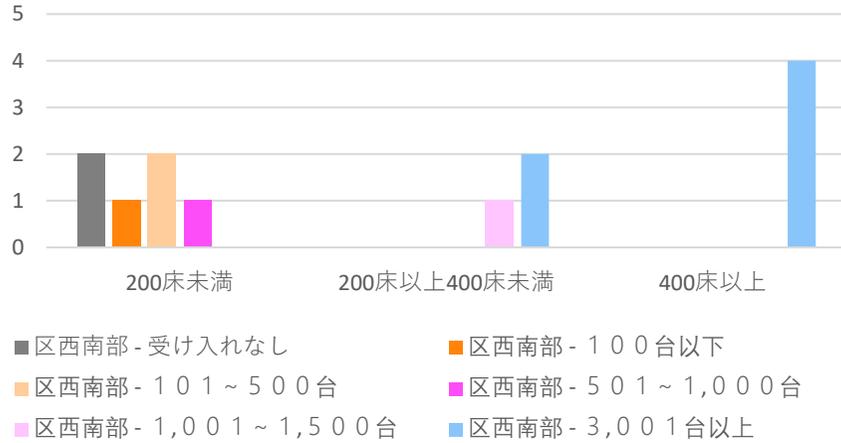
介護医療院

その他（精神病床、障害者施設等病床）



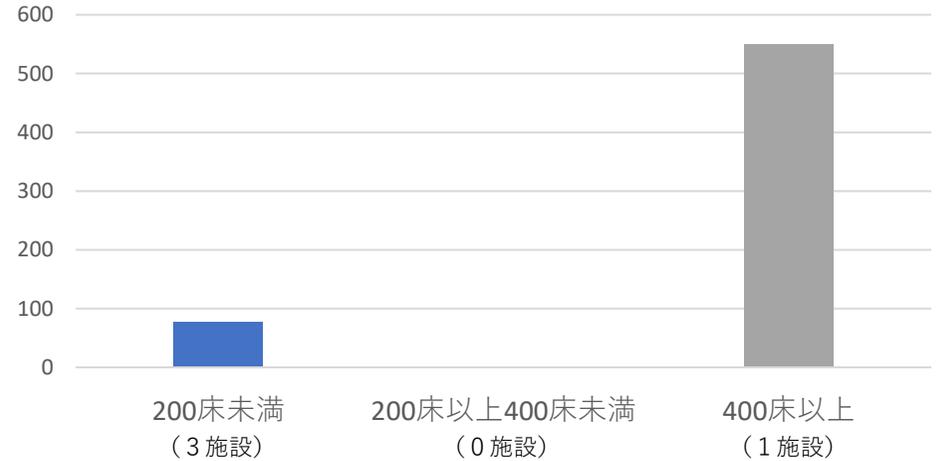
事前アンケートの結果（区西南部）

■ 令和5年度救急車受入台数

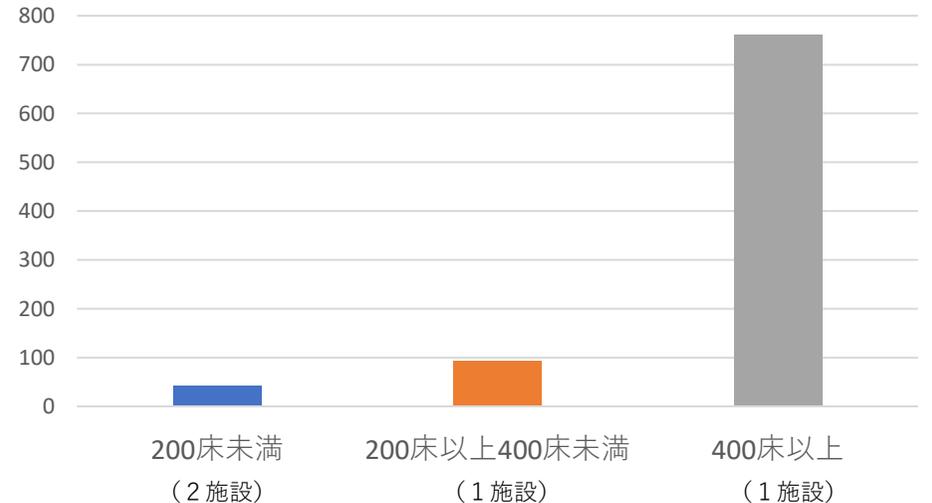


■ 令和5年度地域連携入退院患者数

転院上り（人／年）（合計）



転院下り（人／年）（合計）

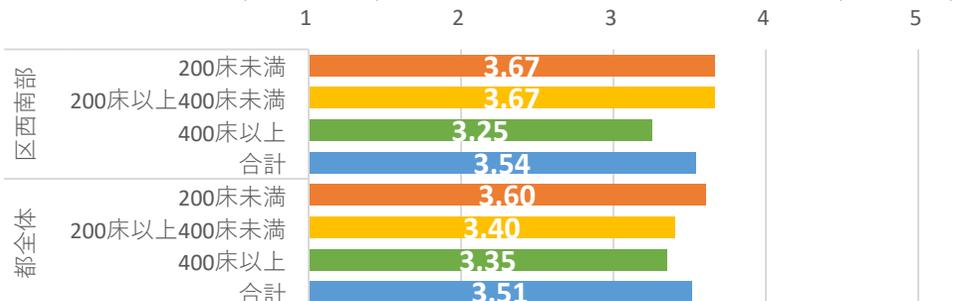


事前アンケートの結果（区西南部）

■ 連携等に関する影響について

《緊急搬送・予定転院》

平日・日昼の緊急搬送において、相手先の病院と円滑になされていると思いますか。 (全く思わない) (すごく思う)



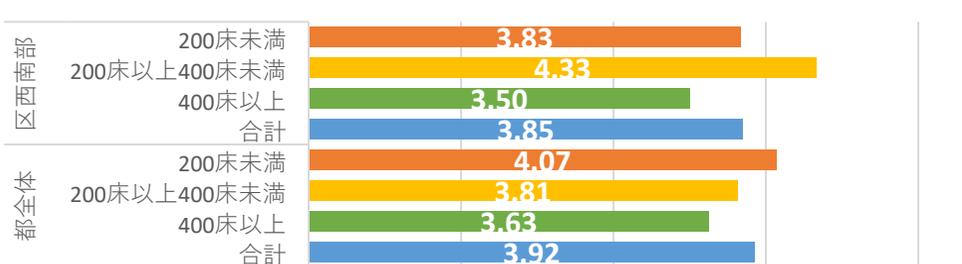
休日・夜間の緊急搬送は相手先の病院と円滑になされていると思いますか。

(全く思わない) (すごく思う)



予定転院において、相手先の病院と円滑になされていると思いますか。

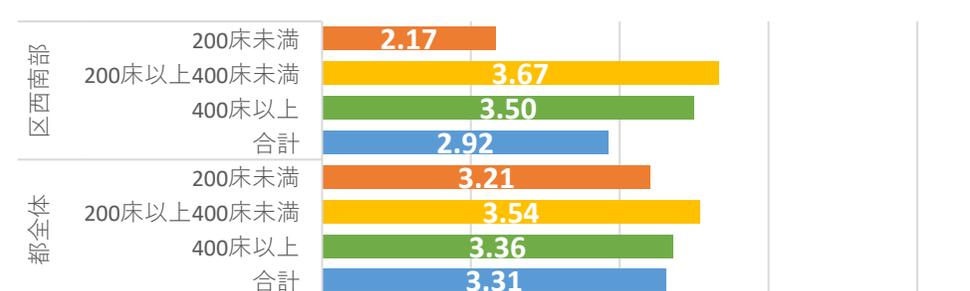
(全く思わない) (すごく思う)



《受入側としての要望》

早期の転院を（迅速に）受け入れするに当たり、診療科を絞れば受け入れは可能と思いますか。

(全く思わない) (すごく思う)



早期の転院を（迅速に）受け入れするに当たり、患者の重症度を限定すれば受け入れは可能と思いますか。

(全く思わない) (すごく思う)

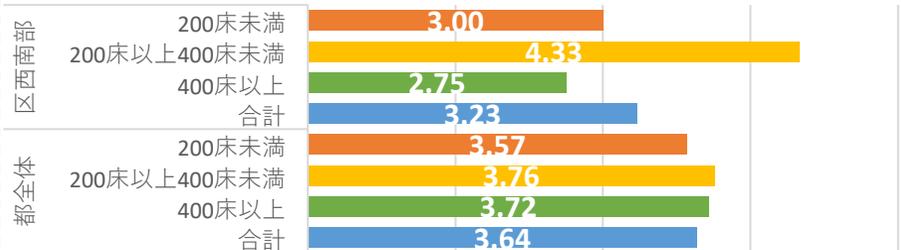


事前アンケートの結果（区西南部）

《自院の課題》

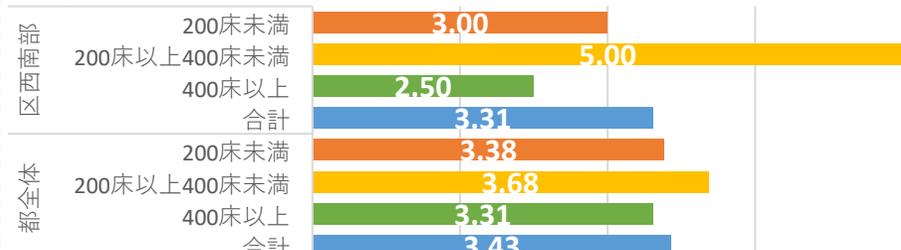
自院の医師が潤沢であれば、積極的に受け入れることが可能だと思いますか。

(全く思わない) 1 2 3 4 5 (すごく思う)



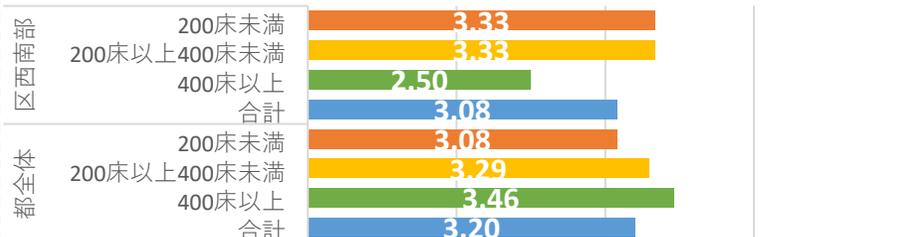
自院の医師以外の職員が潤沢であれば、積極的に受け入れることが可能だと思いますか。

(全く思わない) 1 2 3 4 5 (すごく思う)



自院のベッドコントロールが改善されれば、積極的に受け入れることが可能だと思いますか。

(全く思わない) 1 2 3 4 5 (すごく思う)



《患者側の課題》

患者側の理解さえ早く得られれば、早期に転院させることが可能だと思いますか。

(全く思わない) 1 2 3 4 5 (すごく思う)



患者家族の理解さえ早く得られれば、早期に転院させることが可能だと思いますか。

(全く思わない) 1 2 3 4 5 (すごく思う)

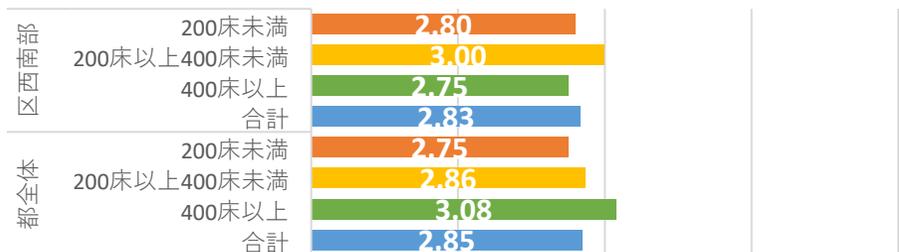


事前アンケートの結果（区西南部）

《下り転院の問題（主に急性期病院が回答）》

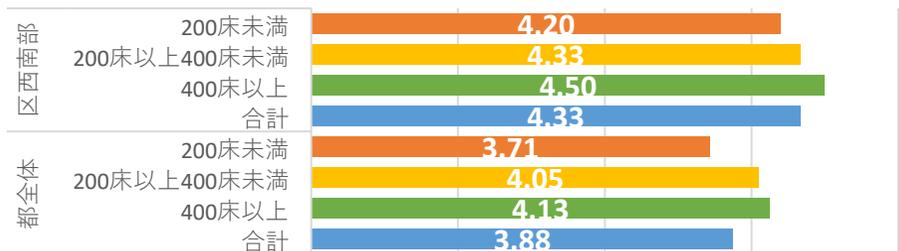
過去に病状が落ち着いたことで転院した患者が、悪化等で再び自院に戻ってくる可能性がありますか。

(全くない) 1 2 3 4 (すぐある) 5



過去に様々な病気を抱えた（複雑な）患者を転院させるにあたり、転院先がなかなか決まらないことがありましたか。

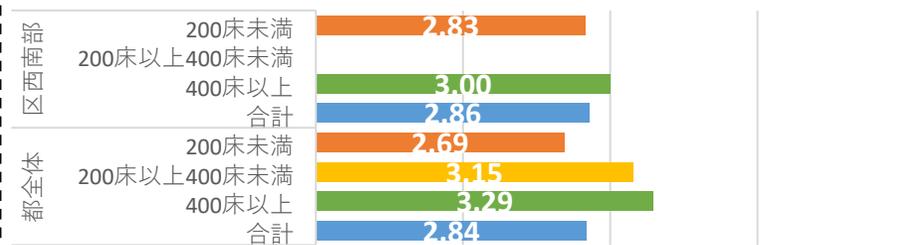
(全くない) 1 2 3 4 (すぐある) 5



《下り転院の問題（主に回復期・慢性期病院が回答）》

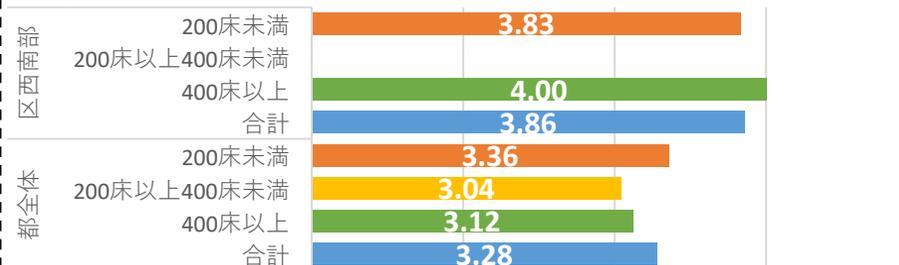
過去に病状が落ち着いたことで転院された患者が、悪化等で再び前医に再入院されたことがありますか。

(全くない) 1 2 3 4 (すぐある) 5



過去に急性期病院から様々な病気を抱えた（複雑な）患者の転院依頼があった際に、お断りしたことはありますか。

(全くない) 1 2 3 4 (すぐある) 5



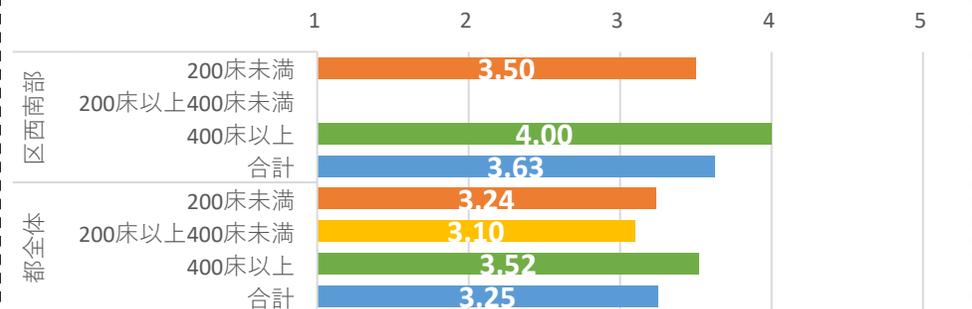
事前アンケートの結果（区西南部）

《連携の進捗度》

平成28年の地域医療構想策定当初と比べて、全体的に地域での連携が進んだと思いますか。

(全く思わない)

(すごく思う)



■ 連携等に関する影響への対応

自院や地域として対応している取組

- ・地域包括支援センターを中心に地区連携医、ケアマネージャー等と毎月テーマを決めて勉強会を行いコミュニケーションを深めている。市民公開講座を開催して地域の方々の通院しやすい病院を目指している。ホームページをリニューアルして見やすいものとした。
- ・小児では救急ネットワークが構築されているため、受け入れ困難な場合はネットワークを活用し受け入れ先を選定することができている。日頃より医師会と情報共有を図る機会を設けている。依頼のあった患者を断らず受け入れることができるよう、ベッドコントロールしている。
- ・急性期病状については、迅速な受入を行っております。今年度より、下り転院について他医療機関との連携を開始いたしました。
- ・①近隣の急性期病院と顔見知りの関係を築き、連携を強化できるよう働きかけてきた。下り転院の際に多少困難ケースでも積極的に受け入れるよう努力してきた。その結果、上り転院の際にもスムーズに受入れをしてもらえるようになり連携を強化できた病院が増えた。世田谷区内の二次救急病院との連携は全般的に良好と考えている。②上り転院の際は、看護師が転院相談を行うことにしている。急変しているケースなので患者の対応しながら診療情報提供書を作成する主治医に代わり、病状をまず口頭で説明し転院相談を早期に開始できるという利点があるためである。
- ・患者情報のやり取りがネックとなっている
- ・当院では患者地域サポートセンターという入退院についての情報交換などを専門に行う部署を設置し、MSWと看護師が業務にあたっています。
- ・院内の医療者同士のコミュニケーションや、他の病院の連携室・MSWとの関係構築・深化
- ・上りにおいても、下りにおいても、日頃病病連携が図れるよう相互の病院訪問や実務者の意見交換会などを行い、転院が円滑に進むような取り組みをしている。またシステムとしては、連携契約を取り交わし、病院内でも受け入れがスムーズにいくよう意識づけをしている。患者側の意識は転院に対しては全般的に協力的であり、また早期からMSWが介入し患者の意向に寄り添った転院支援を病院として取り組んでいる。
- ・日頃より「顔の見える連携」として訪問活動や医療連携懇談会の開催等を実施し連携を深め、円滑に患者受け入れや紹介が出来るよう取り組んでいる。

事前アンケートの主な意見（区西南部）

■ 自院や地域として対応していくべき取組の考えやイメージ

- ・電子カルテ導入による情報共有・業務の効率化を目指している。地域連携を積極的に行うために在宅療養後方支援病院を目指している。
- ・Dxを活用し、患者情報や病床の状況を他院、地域とタイムリーに共有ができるようになると良い。地域では様々なアプリを使用しており、受け入れ側としては、それぞれのアプリに対応することが困難であるため、共通して使用できるシステムがあれば導入していきたい。小児・周産期では機能分化されていないため、当院では高度急性期医療から慢性期・在宅移行まで担っている。地域での受け皿が増えるよう小児医療の質の向上に貢献していくとともに、医療的ケア児も成人を迎えるようになってきているため、成人移行の充実を図っていくことが必要。
- ・地域医療機関と連携し、24時間体制で患者さんのニーズに対応するよう、心がけております。
- ・近隣病院への上り転院の際、地域連携室に看護師（師長）がいる病院とは、転院が迅速に進められていると実感している。もっと多くの急性期病院が地域連携室内に看護師を配置し、慢性期病院からの受け入れ対応をしてもらえるようになってほしい。
- ・医療DXの推進について診療報酬で評価する
- ・地域の医療機関との積極的なコミュニケーション（訪問をしての意見交換や、来訪いただいた際の意見交換）
- ・救急の転院受け入れについては、体制整備は必要となっている現状がある。医師については積極的に受け入れる意識改革、その他のスタッフについてはスムーズに受け入れができるような人員整備および増員が必要である。甚人整備が可能となれば、救急隊や転院についてのホットラインや初動対応が可能となり、より受け入れが可能となるのではないかと考える。また転院については、最近は患者の自己負担が多く、経済的問題が原因で転院先が決まらないことは多い。昨今の患者負担増は目まぐるしく、何かの補助や支援は地域や行政レベルでの検討は急務だろう。
- ・日頃より他の医療機関との連携を深め、気軽に相談される風通しのよい医療機関を目指している。

■ 地域連携の推進についての意見

- ・専門医が少ない慢性期病院入院中の患者の病状相談がよりスムーズになるよう、近隣病院と画像データを共有できると良いと思う。
- ・連携の形、連携の方針や流れは、病院ごとに本当に違いがあり、それは今後変わらないと思われるため、患者さんをやり取りする医療機関同士の継続的なコミュニケーションが重要だと感じます。
- ・国民への意識（広報、周知）を深め、円滑な連携になることを望む。